



自動走行技術導入目標の前倒しについて

- 2018～19年度にかけての実証実験を通じて、自動運転レベル3相当※（L3）については技術的検証に一定の目途。L3相当の運用によりL4相当※導入に必要な課題を抽出・対応することで、**空港内における自動運転L4相当の導入目標を2030年→2025年に前倒しする。**
- 2025年の自動運転L4相当導入実現に向けて、次年度以降はL4相当の実証実験および共通インフラの整備、運用ルールの見直し等の取組を官民連携して進める。

※空港制限区域内において導入を目指す各レベルの要件については、今後本検討委員会において議論を予定。

分野	例	フェーズⅠ 省力化 (実証実験)	フェーズⅡ 省力化 (導入) 2020年	フェーズⅢ 自動化 (実証実験)	フェーズⅣ 自動化 (導入) 2025年
旅客	 ランプバス	自動運転レベル3相当 (運転者乗車。緊急時等に運転者が操作する必要)		自動運転レベル4相当 (完全自動運転)	
		★ 2018年度 仙台/成田/羽田/中部 ★ 2019年度 羽田/中部	☆ 2020年内導入予定	2020年度～ レベル4相当 実証実験	2025年度～ レベル4相当 導入
手荷物 貨物	 トローイングトラクター	自動運転レベル3相当 (運転者乗車。緊急時等に運転者が操作する必要)		自動運転レベル4相当 (完全自動運転)	
		★ 2019年度 成田/中部/佐賀 ☆ 2020年度 成田/関西	☆ 2020年内導入予定	2020年度～ レベル4相当 実証実験	2025年度～ レベル4相当 導入

【凡例】 2020.3時点 実施・導入年次、空港：

- ★ 実施・導入済
- ☆ 実施・導入予定

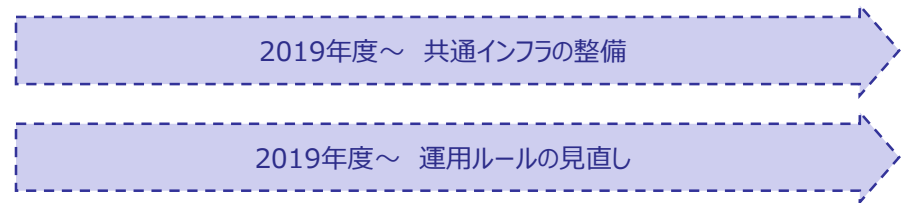


図 空港制限区域内における自動走行の実現に向けたロードマップ（案）